



青島の風

青島日本人学校だより
平成30年12月15日
校長 金森 孝子

平成最後の冬休みに入ります

小雪舞う朝、登校して校庭一面に積もった雪を見るやいなや、子どもたちは外に出て何かをしたい様子を見せます。その思いをくんだ担任が声をかけると、一斉に雪遊びが始まります。新雪の上に足跡をつけたり寝そべったり・・・雪だるまや雪合戦に興じている子どもたちもいます。業間休みには雪の上でサッカーが始まります。子どもの楽しみ方は無限です。

12月4日(火)～10日(月)は、第70回の人権週間でした。「人権は、人間が生まれながらにもっている権利。民族、国籍、障がいの有無、性別など、いかなる人もいかなる理由で差別されない。」現在、世界人権宣言が採択されてからすでに70年が経っていますが、差別は解決されるどころか新たな差別が生まれてきています。いじめ、特定の国に対する差別、ヘイトスピーチなど。深刻な問題となっているインターネットの書き込みは、書いた人が特定されません。4日(火)の朝会で、LD (Learning Disabilities) を扱った絵本(自叙伝)「ありがとう フォルカ先生」(パトリシア・ボラッコ作・絵 香咲弥須子訳 岩崎書店)を読みました。そして、子どもたちに、「人権とは?」「なぜ、制度が整ってきているのに差別はなくなるらないのか。」について問いかけました。お家の方でも、ぜひ人権について話し合ってみてください。



さて、今日で長かった2学期が終わります。8月13日から12月15日まで86日間、水泳学習、運動会、学習発表会など、子どもたちは季節の移り変わりを生活や学習に取り入れながら、教育活動に全力で取り組みました。そして、この間、自分の特徴やよさを生かしながら、「ち(知恵)、ん(感動・感性)、た(たくましさ)、お(思いやり)」の4つの力を大いに伸ばしました。

このような教育活動に安心して取り組みますのも、学校運営理事会、PTA役員の皆様はじめ、保護者の皆様方が、多方面にわたりご支援、ご協力くださっているからに他なりません。職員一同、感謝の思いでいっぱいです。来年は、亥年。猪突猛進、突き進む年です。前進したことが、すべて子どもたちのよりよい成長につながる年となることを願っています。よい年をお迎えください。

PTA主催秋行事 ありがとうございます

担当 大林 恭子



秋祭りを控え、配布された会場図に目を輝かせる中学部3年生。どの学年もこの行事を心待ちにしていることが伺える一コマでした。

11月28日(水)当日はスーパーボールすくい、コイン落とし、ストラックアウト、飲み物輪投げ、ボールはどこだ!、紙飛行機飛ばしの6つのゲームコーナーが開かれました。

レイアウトやお店の看板一つとっても、それぞれにゲームの特長や秋らしさが演出され、ボランティアの皆様の知的で素

敵な「感性」にあふれた空間に、子どもはもちろん大人の教員も心躍らせました。

また、今回は小学部1、2年生の生活科の取組やパンたおのイラストなどで、子どもたちの活躍の場もご提供いただいた上、理事の皆様にはイラストの賞の選出で、秋祭りに花を添えていただきました。

「あ～、楽しかった!」と大満足の子どもたち。異国の地でのこの体験は、思い出の1ページとしてだけでなく、原風景として子どもたちの心に刻まれるのではないのでしょうか。

例年「夏祭り」ののところを、今年度は国際会議により実施日をご配慮いただき、内容についても保護者の皆様からアイデアを募集するところからのスタートとなりました。多くの方々のお力添えにより、秋行事を開催できましたこと、心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

現地校との交流

小学部担当：岡本直恵、中学部担当：吉浦梓

本校では、同年代の児童生徒との交流を通し、互いの学校生活や日常生活を伝えあい、国際理解を深めることを目的として、現地校との交流を年1回行っています。

小学部は5月に上清路小学を訪問しました。2009年から始まった上清路小学との交流会は、今年で10回目となりました。訪問前の中国語の授業では、ピンインを書いたネームを作ったり、あいさつや質問の会話練習を行ったりするなど、交流会に向けていろいろな準備を重ねました。当日は、低学年・中学年・高学年に分かれて、主に授業を通して交流しました。体育のミニゲームではお互い笑顔で活動する姿、算数では同じ課題に取り組んで、協力して課題を解決する姿、グループ活動では中国語の他に英語で交流する姿など、どの学年も素敵な交流の姿がみられました。

中学部は10月に第六十五中学からの訪問がありました。今年度は卓球というスポーツをメインに関わりました。スポーツを通して共に汗を流し、喜びや悔しさを分かち合う、まさに言葉の垣根を超えた貴重な経験をすることができました。交流後も感想を交換し合い、お互いをさらに知ろうとする努力をしています。

これらの交流を通し、両校の絆、さらには日本と中国の絆がますます深まっていくことを願っています。



教室の窓

中学部2年 担任 吉浦梓

中学部2年生は「教室歓談」という学年目標を掲げ過ぎてきました。これは「炉端でうちとけて楽しく話し合うこと。」という意味の「炉辺歓談」という四字熟語をもとに、「教室でみんなで寄り添い、とりとめもない話をして笑い合えるような、そんな居心地の良いクラスにしたい。」という思いから創った言葉です。

毎日密接に関わって過ごす4人は、お互いの良いところも課題も含めよく知っています。それを受け入れ、それぞれの良さを保ち続けられるように心配りをしながら学校生活を送ることを大切にしています。

授業の内容でわからないことがあると互いに教え合い、遠慮なく聞き合ことができます。お昼ご飯の時は、他愛もないことで笑い合っています。時には考え方の違いから意見が分かれ、何とも言えない雰囲気になることもあります。そんなときはお互いが譲り合った意見を出し合っていくように努力しています。

3学期も4人の空間を大切に過ごしてほしいと思います。

